

# ふじのくにNPO活動基本指針（案）

～SDGs実践を通じた豊かな地域づくり～

## 背景

少子高齢化に伴う人口構造の変化、経済成長の停滞への懸念、格差の拡大、気候変動に伴う災害発生等により、社会全体で、持続可能な開発目標（SDGs = Sustainable Development Goals）への関心が高まっているが、具体的な実践方法は模索状態である。

## NPOに期待される役割

## 基本指針

### ① NPOの組織運営基盤の強化

現状

NPOの人材不足、資金不足  
コロナ禍での活動休止・縮小

- ・次世代を担う人材育成
- ・複数の収入源による運営安定化
- ・コロナ等の新たなリスクと新たなニーズに対応した柔軟な事業手法への転換

### ② NPOの情報発信の強化

現状

市民に活動が知られていないため、新たなメンバーや支援者が増えない

- ・情報公開の推進による市民の信頼獲得
- ・戦略的広報による市民の共感支持獲得
- ・新たなメンバーが参加しやすい体制づくり

### ③ 多様な主体との協働

現状

協働についての考え方や狙いが主体によって異なる

- ・協働で達成すべき目標のすり合わせ
- ・多様な主体それぞれの独自性を尊重
- ・多様な解決方法で、誰一人取り残されない社会に

## 県の施策の方向性

- 組織運営基盤の強化の支援⇒ 中間支援機能の充実、デジタルデバйд対策
- モデル的な取組の支援⇒ 事業手法の変革等に挑戦するNPOをバックアップ
- NPOのマッチング支援⇒ 「出会い」や「つながり」が増える仕掛けづくり
- NPOの事務負担軽減と利便性向上に向けた県の業務の見直し  
⇒ NPO法に基づく申請等の押印手続の見直し、県HPの機能強化等